

東博史大使からのメッセージ（大使館便り 155号より）

立春の候、当地では、比較的暖かい日が続いており、皆様におかれましては、健やかにお過ごしのことと存じます。

今月は、「1月24日のポルトガル大統領選挙」、「サンタマリア・ダ・フェーラ市訪問」、「トーレス・ヴェドラス市サンタクルス訪問」について御紹介したく存じます。

（1）ポルトガル大統領選挙

1月24日、ポルトガルで大統領選挙の第1次投票が実施され、昨年10月の立候補表明以降、各世論調査で終始リードしていたマルセロ・レベロ・デ・ソウザ候補(社会民主党元党首、政治コメンテーター、大学教授)が有効票の過半数を上回る52%の支持を集め、1次投票での当選を果たしました。大統領就任式は3月9日で任期は5年(再選は一度可)、1974年の革命以降、5人目の大統領が誕生します。

同氏は、ブラガンサ財団理事長を務めておられて、私も、これまで数回お会いしていますが、豊富な知見と高い教養をお持ちで、ポルトガル及び国際社会において「日本」が果たすべき役割の重要性に言及されています。また、御本人も抱負として述べておられるとおり、ポルトガルの今後の発展のためには、新大統領の下で、「政治的安定性の確保」が実現されることが期待されています。

（2）サンタマリア・ダ・フェーラ市訪問

1月15日、私はサンタマリア・ダ・フェーラ市(ポルトとアヴェイロの間の市)を訪問しました。今回の訪問は、エミディオ・ソウザ市長の招きにより、八田智大、リカルド・ヴィエイラの2人のピアニストによって2010年に結成されたピアノ4手連弾デュオ「MusicOrba」(ムジコルバ)の演奏会出席のためでした。同演奏会は、同市市庁舎オーデイトoriumで開催され、日本の楽曲も含め素晴らしい演奏会でした。2人の演奏者は普段はパリ在住ですが、日本人の八田氏とサンタマリア・ダ・フェーラ市出身のヴィエイラ氏のピアノ4手連弾デュオは、日本とポルトガルの友好の象徴として是非世界で活躍を期待したいと思いました。

同市訪問の機会に、同市長他とともに、アモリン・グループを訪問しました。アモリン・グループは、長年にわたり、日本にコルク及びコルク製品(建材、壁材、床材等)を輸出しています。また、同グループは、石油関連企業のGALPの株主でもあり、ジョアキン・アモリン会長他より、「今後は、コルク関係の貿易・投資に加えて、エネルギー関係等より幅広い分野での協力並びにCPLP諸国(特にアフリカ)での両国企業の協力を進めていきたい」との示唆がありました。

更に、同市長の紹介(同席)で、GRANNORTE社(コルク製品製造会社で既に40年に亘って日本に建材等コルク製品を輸出)、p:b社(PROFESSION:BOTTIER)(靴製造企業で既にKENZOグループに靴を提供している由)、Rufel社(皮革バッグ製造)等の幹部とお会いする機会があり、いずれの社よりも今後日本との関係を更に強化・拡大したいとの意向が示されました。



(3) トーレス・ヴェドラス市サンタクルス訪問

1月27日、私は、トーレス・ヴェドラス市を訪問し、カルロス・ベルナルデス市長を表敬するとともに、同市長と一緒に壇一雄ゆかりの「サンタクルス」を訪問しました。

皆様も御存知かと存じますが、「サンタクルス」は、作家・壇一雄が1970年～71年にかけて1年半あまり住んで愛してやまなかった町と言われています。リスボンの北約30キロメートルのトーレス・ヴェドラス市にあり、夏は海水浴場として賑わいます。

同市長とともに、「Alto da Vela」(高台にあり、広大な大西洋に面する壇一雄が愛した美しい夕陽の名所)、「壇一雄が住んでいた家」、「壇一雄の名前が通り名になっている通り」、海岸近くに建てられた「文学碑」、「同氏が愛犬とともに散策した海岸」、「同氏が足しげく通った居酒屋」、「サンタクルス水車小屋」(観光案内所)等を視察しました。

特に、「壇一雄が住んでいた家」では、壇一雄と親交のあった同家のオーナーが当時の模様を話して下さいました。また、「居酒屋」には、壇一雄を知る数人の方がわざわざ来て下さり、壇一雄と一緒に写っている写真、壇一雄から譲り受けた「書籍」、雑誌、日本語の年賀状等手紙、日本手ぬぐい、折り紙等壇一雄ゆかりの品を見せて頂きました。既に40年以上の歳月がたっているにもかかわらず当時のことを昨日のこのように話す御婆さんの姿を見て、壇一雄が地元の住民に如何に溶け込んで、親しまれていたか、また、「日本」について如何に良い印象を残したかについて、強い感銘を受けました。

また、同市の取り組みとしても、「壇一雄が住んでいた家」の前の通りを「壇一雄通り」と命名するとともに、1992年には、壇一雄の御家族、関係者とともに「文学碑」を建立。今も、「サンタクルス水車小屋」(観光案内所)では、壇一雄の写真をビデオで流す等壇一雄を「顕彰」し続けています。





今回、全日程に同行頂いたカルロス・ベルナルデス市長からは、『壇一雄は、「サンタクルス」を彼自身と「空」、「海」そして「大地」と一体になれる場所として愛し、彼の作品形成にインスピレーションを与えたと信じている。この壇一雄とサンタクルスの関係を「起点」として、ポルトガルと日本の関係を強化していきたい。そのためにも、今後、壇一雄のサンタクルスでの滞在を中心として、壇一雄の人生、作品を顕彰し、サンタクルスの町を文学、絵画、彫刻、音楽、演劇、パーフォーミングアート等の「芸術」、更には食文化等にインスピレーションを与える街として知らせていきたい。また、日本からの観光客の増加を図りたい。このため壇一雄ゆかりの「山梨県」、ポルトガルと関係の深い「九州」とトーレス・ヴェドラス市の間で学校間の交流や旅行業関係者、報道関係者、有識者に来て頂いて、サンタクルス海岸のプロモーション、壇一雄の人生ゆかりの地を巡る「壇一雄文化街道」の如きものを検討したく是非とも日本大使館の助力を得たい』とのお話がありました。私も、40年以上も前に、実質6か月程滞在しただけの日本人文学者を今もこれ程慕い、日本との関係強化を図りたいとしていることを高く評価し、今後如何なることができるか真剣に検討いたしたく存じます。また、3月初旬に予定されている「リスボン旅行博」の際に、日本からの旅行関係者との交流の機会を持つようにしたく存じます。皆様におかれましても何か良いアイデア等がございましたらお知らせいただければ幸甚に存じます。

1月中の行事として、23日には、「日本人会新年会」、同26日には、「日本・ポルトガル商工会議所主催新年会」、同30日には、「ポルトガル・日本友好協会新年会」が開催され、私も出席し、挨拶しました。

更に、1月30日、ポルトガル語の普及を目的とした国際会議「I Conferencia Internacional Rotas e Paisagens da Língua Portuguesa」がヴィラ・フランカ・ド・シーラで開催され、第一回目のテーマに「日本の CPLP オブザーバー参加」が選ばれ、私も出席し、挨拶しました。

また、1月号でお知らせしたとおり、1月27日～30日、ミゲル・フラスキーリョ・ポルトガル投資貿易振興庁(AICEP)長官が訪日しました。これらについては、次号以降で詳細を御紹介致したく存じます。

2月に入り、季節の変わり目となりますが、皆様におかれましては、御自愛の上御活躍されますようお祈り申し上げます。